

デジタルハリウッド大学大学院セミナーシリーズ 「AI Bricolage Session」実施報告

Digital Hollywood University Graduate School Seminar Series "AI Bricolage Session" Event Report

福岡 俊弘 FUKUOKA Toshihiro

デジタルハリウッド大学大学院 特命教授
Digital Hollywood University, Graduate School, Specially Appointed Professor

「AI Bricolage Session」は、デジタルハリウッド大学大学院が主催する一連のセミナーシリーズで、人工知能 (AI)、とりわけ生成AIにフォーカスし、その進化と私たち「ヒト」にとってのその意味を探ることを目的として、計5回にわたって実施したトークイベントである。このシリーズは、AIがもたらす変革とその社会的影響についての深い洞察を提供し、参加者に最新の知見を共有する場を提供した。各セッションでは、AIの様々な側面を探索し、有識者や研究者によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて、参加者が新しい視点を得ることを目指した。

1. はじめに

このセッションを企画した最大の動機として、2022年に始まる生成AIへの関心の高まりと、その圧倒的な進化のスピードが背景にあった。異例の早さでAIが社会に実装されていく中、果たしてこの進化は、人間にとってどういう意味があるのだろうか、いや、そもそも生成AIは人にとって意味があるのだろうか、という疑問があった。そこで本セッションでは論点を整理しつつ、思想、クリエイティブ、実装など様々な領域で、ディスカッションを試みた。

2. 実施概要

本シリーズは2023年11月から始まり、隔月で計5回のセッションを実施した。各セッションは、2部構成からなり、識者、研究者による講演に続いて、ゲストを交えてのディスカッション、質疑応答が行われた。セッションの内容は、AIの技術的側面から社会的影響まで幅広くカバーされ、参加者にAIの現在と未来に対する理解を深める機会を提供した。

開催趣意のテキストを次に示し、告知素材を図1に示す。

画像生成AIのMidjourneyや大規模言語モデルを基にしたChatGPTなど、いわゆる生成系AIの登場は、私たちが想定していた「進化」のパラダイムを、否応なしに問い直し、考え直さざるを得ない局面を迎えています。一方、それに対する明確な答えは、まだ見いだせていません。それはAI自身は加速度的な進化の最中にあり、一方で私たちの思考の整理には絶望的に時間がかかってしまう、その対比が答えを見つけにくくしているのではないかと思います。

本連続セッションでは、様々なジャンルの有識者をお招きし、講演とディスカッションを通じて、このとても「難儀な」時代をブリコラージュしていきたいと考えます。

ブリコラージュとは

理論や設計図に基づいて物を作る「設計」とは対照的なもので、その場で手に入る物を寄せ集め、それらを部品として何が作れるか試行錯誤しながら、最終的に新しい物を作ること。レヴィ=ストロースが『野生の思考』の中で、「神話的思考」を説明するのに用いた。



図1：告知素材

3. 実施内容とサマリー

開催の様子を図2に示す。



図2：開催の様子（スタッフ撮影）

各セッションの実施内容とサマリーについて記す。

(1) 1st Session: 結界の融解

開催日：2023年11月14日(火)

登壇者：三宅陽一郎、竹中直純

告知サイト：<https://ai-bricolage.peatix.com/view>

セッションログ：

第1部：<https://www.youtube.com/watch?v=nKfCSFcQIGg>

第2部：<https://www.youtube.com/watch?v=wKgN854G0Bg>

第1回「結界の融解」では、AI技術が人間の認識の境界をどのように溶解しつつあるかについての深い議論が行われた。三宅陽一郎は、AIが持つ知覚能力の拡張性について、「AIは我々の知覚のフレームを再構築する力を持っている。AIによる情報処理能力の高さは、人間の認識に新たな可能性を開く」と述べ、人間が直感的に理解できない複雑なデータパターンや知覚をAIが解釈し提示することで、人間の視野が広がる可能性について論じた。さらに、彼は「AIは物理的な限界を超えた新たな認識の地平を提供する」とし、従来の感覚や認識を超える次元でのAIの役割を強調した。

竹中直純は「AIが持つ自律性は、私たちが従来持っていた自己認識の枠を越えさせる」とし、AIが人間に与える影響について倫理的な視点から議論を展開した。彼は「AIは私たちの意識の境界を模倣しながらも、それを超える存在であり、これが我々にとっての新しい挑戦である」と語り、AIが人間の倫理観や意識をどのように変革していくのかについて考察を深めた。竹中はまた、「AIは私たちの意識の限界をテストするものであり、我々はその影響を無視できない」とし、AIが引き起こす可能性のある社会的・倫理的問題について警鐘を鳴らした。

(2) 2nd Session: 漂流する思考

開催日：2024年1月17日(水)

登壇者：奥出直人、平野友康

告知サイト：<https://ai-bricolage-2nd.peatix.com/view>

セッションログ：

第1部：<https://www.youtube.com/watch?v=LqNaAy5NuOg>

第2部：<https://www.youtube.com/watch?v=vwCa27ZmiEI>

第2回「漂流する思考」では、AIと人間の思考の関係性をテーマに、AIがもたらす新しい思考の形態についての議論が行われた。奥出直人は「AIとの対話が、人間の思考の可能性を拡張する手段となり得る」とし、人間の認識能力がAIによってどのように変化するかについて言及した。彼は、「AIは人間が直面する問題に対して、より深い洞察を提供することができる。これはAIが持つ計算力やデータ解析能力のおかげであり、人間の思考が到達し得ない領域に到達するためのツールとなる」と強調した。

平野友康は、「AIが提供する無限のデータは、我々を常に新しい問いに向かわせる」と述べ、人間の知的冒険を促進するAIの役割について議論した。彼は「AIがもたらすデータの膨大さは、我々の思考を絶えず刺激し、新たな視点や解釈を促す。AIと共に考えることは、人間の知性をさらに高める可能性がある」と語り、AIを通じて得られる知識の広がりを肯定的に評価した。また、平野は「AIの進化によって、我々の思考様式もまた進化していく」とし、AIが知識の獲得だけでなく、知識の運用方法そのものにも影響を及ぼすことを指摘した。

(3) 3rd Session: 創生と共生

開催日：2024年3月14日(木)

登壇者：栗原聡、橋本大也

告知サイト：<https://ai-bricolage-3rd.peatix.com/view>

セッションログ：

第1部：<https://www.youtube.com/watch?v=PsltmEul3UQ>

第2部：https://www.youtube.com/watch?v=_s1NsYU40zg

第3回「創生と共生」では、AIと人間の共生の未来について、倫理的・社会的な視点からの議論が展開された。栗原聡は「AIは共生のための新たな倫理基準を必要としている」と指摘し、AIと人間が共に生きるためには、新しい倫理的枠組みが必要であると主張した。彼は「AIがますます人間社会に深く入り込む中で、我々はAIとの共生の在り方を再定義する必要がある。AIは単なる道具ではなく、社会の一員として捉えるべきだ」と述べ、AIと人間が互いに補完し合う関係を築くことの重要性を強調した。

橋本大也は「共生の未来は、AIと人間が互いに学び合う関係にかかっている」と述べ、AIと人間が共に進化するためのパートナーシップの重要性について語った。彼は「AIの学習能力は人間のそれを超えており、我々はAIから学ぶべき点が多い。逆に、AIもまた人間の感情や倫理観を学ぶことで、より良い共生関係を築くことができる」と述べ、人間とAIが互いに学び合いながら共生していく未来を描いた。また、橋本は「AIとの共生は、技術的な進歩だけでなく、我々の社会的・文化的な進化も伴う」とし、AIがもたらす変革が社会全体に及ぶ可能性について言及した^[1]。

進行する筆者を図3に示す。



図3：進行する筆者（スタッフ撮影）

(4) 4th Session: 進化と忘却

開催日：2024年5月14日(火)

登壇者：清水亮、松尾公也

告知サイト：<https://peatix.com/event/3909056/view>

セッションログ：

第1部：<https://www.youtube.com/watch?v=fjx5dpPUGAk>

第2部：<https://www.youtube.com/watch?v=VupRhpKD5S0>

第4回「進化と忘却」では、AI技術の進化とそれに伴う社会的記憶の変容についての議論が行われた。清水亮は「AIの進化は私たちに歴史や記憶の再解釈を迫る」とし、AIがもたらす新しい歴史認識の可能性について語った。彼は「AIは膨大なデータを解析し、人間の記憶の限界を超える洞察を提供する。しかし、それは我々が持つ伝統的な歴史観や記憶の在り方を再考させるものである」と述べ、AIが過去の出来事や歴史的な記憶をどのように再構築するかについて議論した^[2]。

松尾公也は「忘却もまた進化の一部であり、AIはそれを助長する役割を果たす」と述べ、AIが情報の管理と消失に与える影響について議論した。彼は「AIのデータ管理能力は非常に高いが、それでも情報の取捨選択は避けられない。私たちはAIによって選ばれた情報だけを知ることになり、それが我々の認識に影響を与える可能性がある」と述べ、AIによる情報の選別が人間の記憶や歴史観に与える影響について警鐘を鳴らした。また、松尾は「進化とは単に前進することではなく、時には過去を忘れることも含まれる」とし、AIがもたらす情報過多の時代における記憶の役割について考察した。

(5) 5th Session: 魔術と越境

開催日：2024年7月16日(火)

登壇者：武邑光裕、宇川直宏

告知サイト：<https://ai-bricolage-5th.peatix.com/view>

セッションログ：

第1部：<https://www.youtube.com/watch?v=HmBGpjRpmts>

第2部：https://www.youtube.com/watch?v=Bq_HLv6S-UI

第5回「魔術と越境」では、AI技術と人間の精神的探求の関係性について訴求を行なった。武邑光裕は「AIは新たな魔術であり、私たちの知覚の限界を越える力を持つ」と述べ、AIが持つ未知の力について

強調した。彼は「AIはただの技術ではなく、ある種の魔術的存在であり、その力は我々の現実理解を超えるものだ。AIを通じて見ることができる世界は、私たちがこれまでに知らなかった新たな現実である」と述べ、AIがもたらす新しい可能性についての考察を深めた。

宇川直宏は「AIによる越境は、我々の文化的枠組みを再定義する」とし、AIが文化や社会に与える変革の可能性について語った。彼は「AIは異なる文化や価値観を超えた存在であり、その存在が我々の社会や文化にどのように影響を与えるかはまだ未知数である。しかし、AIは確実に新しい文化的価値を創造する可能性を持っている」と述べ、AIが文化の進化に与える影響について積極的に評価した。また、宇川は「AIとの共生は我々の精神的な越境でもある」とし、AIが人間の精神的な成長に与える可能性についても言及した。

4. 総括

「AI Bricolage Session」は、AI技術に関する多角的な視点を提供することを目的としたセミナーシリーズだった。各セッションは、AIの技術的な側面から倫理的問題、社会的影響に至るまで幅広いテーマを取り上げ、参加者に深い洞察を提供することができた。有識者たちの知見と議論を通じて、AI技術の未来に対する理解が深まったとともに、技術が社会に与える影響についての新たな視点が提供された。

シリーズ全体を通じて、AI技術の進化がもたらす可能性とその課題が明確にされ、今後の研究や実践に向けた方向性が示された。参加者は、AI技術の革新がもたらす変化に対する洞察を得るとともに、これからの社会におけるAIの役割についての理解を深めることができたものとする。このシリーズが今後のAI関連の議論や研究に寄与することを期待したい。

5. おわりに

本連続セッションは、当初、第6回のセッションを2024年9月に開催し、それをもって議論の締めくくり、最終回とするはずだった。そして、そのファイナルセッション「言霊の行方」の登壇者として松岡正剛を予定していた。編集者の視点で、あるいは世界を編集的に見続けてきた氏が、どのように今の生成AIブームを見ているのか。「人」と「AI」の関係の有り様に、松岡がどんな方法を提示してくれるのか、どうしても聞いてみたかったのだ。残念ながら8月中旬、帰らぬ人となってしまった。氏のご冥福をお祈りするとともに、松岡が残した膨大な言葉と書籍^[3]を辿りながら、AIをめぐる確かな知見を探っていきたいと思う。

参考文献

- [1] 橋本大也:『頭がいい人のChatGPT & Copilotの使い方』かんき出版(2024年).
- [2] 清水亮:『教養としての生成AI』幻冬舎新書, 幻冬舎(2023年).
- [3] 松岡正剛:『千夜千冊エディション 電子の社会』角川ソフィア文庫, KADOKAWA(2022年).